

『雪対策功労賞』受賞

住民参加による「利用者ニーズ」を
反映した融雪歩道整備について



「交通バリアフリー法」の施行を受けて、国・県・市が連携し「安全性・利便性・快適性のあるまちづくり」を推進するため、一般歩行者の意見を反映させた融雪施設整備を行ない、より高い整備効果を得ることが出来ました。

利用者のニーズを把握するために取り入れたのは、日常の利用率が多く、きめ細やかな視点を持つ女性(主婦、会社員、学生、子供)からの提言。意見交換会を行ない、提言を反映させたことによって、官民一体となった快適な雪みちが作られました。



▲整備前



▲整備後

実施機関：
北国の暮らし研究会
雪みち観察委員会